

理 事 長 ・ 学 校 長 殿

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
理事長 中 村 徹

公
印
省
略

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
令和 7 年度 中堅教職員研修会
「能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）」
「リスクマネジメント（クレーム対応）」
「教育・指導力向上（授業や話し合いに活用するファシリテーションの技術を学ぶ）」
開催のご案内

平素より本財団事業に対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本財団では、専修学校制度発足以来、独自のカリキュラムに基づき「新任教員研修」を実施し、専修学校における新任教職員の資質向上に努めて参りました。

また、平成 24 年度より、文部科学省の教育研修活動費補助事業の一環として、「中堅教職員研修カリキュラム」の研究・開発を進めております。これは、新任教員研修カリキュラム修了程度の能力を有する方等を対象に、専修学校教育において、後進の指導等を含め、専修学校教育の振興に尽力することが期待される中核的・専門的な役割を担う中堅教職員の育成を目的としたものです(カリキュラムの考え方及び構成に関しましては、7 ページをご参照ください)。今年度は中堅教職員研修会全 8 科目のうち、以下の 3 科目を開催します。

- 能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）：7/31-8/1
- リスクマネジメント（クレーム対応）：8/8
- 教育・指導力向上（授業や話し合いに活用するファシリテーションの技術を学ぶ）：8/28-29、10/20

各科目の詳細については 3～6 ページをご参照いただき、参加を希望される方は 2 ページの申込方法に則りお手続きをお願いいたします。

各科目ともお申込み開始日時は令和 7 年 6 月 12 日（木）午前 10 時 00 分より開始いたします。定員になり次第、締め切りとさせて頂き、当財団ホームページ上でお知らせいたします。

〔お問い合わせ〕

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団＜略称：TCE 財団＞
(Association for Technical and Career Education)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館

TEL：03(3230)4814 FAX：03(3230)2688

令和7年度 中堅教職員研修会 実施要項

【主 催】 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団（TCE 財団）

【科 目 名】 ○能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）
○リスクマネジメント（クレーム対応）
○教育・指導力向上（授業や話し合いに活用するファシリテーションの技術を学ぶ）
各科目の日程等の詳細については、3～6 ページをご確認ください。

【対 象】 専修学校の中堅教職員（目安：勤続5年程度以上）

【申込期日】 令和7年6月12日（木）午前10時00分より開始。

※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。当財団ホームページ上でお知らせいたします。

【申込方法】 各科目のお申込みはすべて、下記 URL または QR コードより、Google フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/JyfZL6dEwoPnQVUv9>



【お振込先】 受講料はお申込みいただいた学校名にて、受講日までに下記口座にお振込みください。
各科目の受講金額につきましては、3～6 ページをご確認ください。

お振込先

みずほ銀行 九段支店（普通）2386904
一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
(振込手数料は貴校にてご負担ください)

※研修会当日の現金の受け渡しはご容赦ください。

※同一の学校や法人から受講者が複数名いる場合、受講料を合算してお振込みいただけます。

※受講料の返金は致しかねます。ご欠席の場合は代理の方のご出席をお願いします。

※会員区分によって受講金額が異なります。開催案内が学校様へ書面で届いている場合、貴校は会員校です。

【修了基準】 各科目所定の研修時間を全て受講された方に、本財団より「修了証」を発行いたします。
教員の方々だけでなく、職員の方々もぜひご参加ください。

※「教育・指導力向上」は、8月開催の対面研修2日間と10月開催のオンラインフォローアップ研修の両方の出席が必要です。

能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）

【内容・目的】

アクティブ・ラーニングが必要だ、と言われたことがあると思います。なぜアクティブ・ラーニングが必要なのでしょう。また、アクティブ・ラーニングとは、そもそもどのような学び方なのでしょう。

本科目では、アクティブ・ラーニングが必要とされる背景と考え方について学びます。人が学ぶプロセスを「学習サイクル」から考え、具体的な日々の授業で何に気をつけて授業をデザインすれば、より深く、学びを促進できるかを具体的な個々の授業実践の中で検討します。

本科目自体をアクティブ・ラーニング形式で、授業で使えるようなツールやテクニックを織り交ぜて実施します。これらを通して、「明日からアクティブ・ラーニング型授業をやってみよう」と思えることを目指します。

【定 員】 24 名

【日 時】 -1 日目- 令和 7 年 7 月 31 日（木）13：00～18：00

-2 日目- 8 月 1 日（金） 9：00～17：00（計 12 時間／2 日間）

※2 日目うち 1 時間は昼休み（昼食は各自でお取りください）

【会 場】 アルカディア市ヶ谷 5 階「大雪（東）」

（東京都千代田区九段北 4-2-25／JR 市ヶ谷駅 徒歩 2 分）

【受 講 料】 TCE 財団の都道府県支部の会員校 1 名 13,500 円

上記以外 1 名 27,000 円

【講 師】 京都大学 教育学研究科 准教授 田口 真奈 氏

【お申込後の流れ】

事務局より事務連絡と事前課題をメールでお送りします。事務連絡をご確認していただき、事前課題にご記入の上、研修会当日にご持参してご来場ください。

【タイムテーブル】 ※グループワークを含めた演習を中心とした科目となります。

予定時間	予定内容
-1 日目-	
12:45	受付
13:00	開講
	○ アクティブ・ラーニングとは何か
	○ アクティブ・ラーニングを促す授業デザイン
	○ 学習評価の基礎
18:00	終了
-2 日目-	
9:00	再開
	○アクティブ・ラーニング型授業への「リ・デザイン」
	○マイクロティーチング
	○振り返り
17:00	閉会

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。上記のタイムテーブルは前回実施時のものです。

リスクマネジメント（クレーム対応）

【内容・目的】

中堅教職員として、リスクマネジメントに関わることは、学校経営の根本的な問題のみならず、日々の運営の中で諸問題に適切に対応し、解決を図る上で強く要請されている。また、クレーム対応には、原理・原則があり、それを踏まえて行動すれば難しいものではない（その中でも最も重要なのは「顧客（学生・ステークホルダー）の心情を理解してふるまう」ことである）。

本科目の受講者は、クレームの基本概念を理解し、過去の代表的な事例からクレーム対応の手順や留意点を知る事で、専修学校におけるクレームの諸問題に対応力を高め、中堅教職員としてふさわしい問題解決能力を身に付けられることを目標とする。

また、組織によるクレーム対応についても学ぶことにより、自組織のCS（顧客満足度）改善計画や企画策定など、リスクマネジメントについての理解を深めることも目標とする。

【定 員】 24 名

【日 時】 令和7年8月8日（金）10：00～17：00（計6時間／1日） ※12：00～13：00 は昼休み

【開催形式】 オンライン（Zoom）

【受講料】 TCE財団の都道府県支部の会員校 1名 9,000 円

上記以外 1名 18,000 円

【講師】 株式会社フェスティナ・レンテ 代表取締役 野関 由味子 氏

【お申込後の流れ】

事務局より後日、研修会当日インターネット上でご接続いただく Zoom URL をご案内いたします。

【タイムテーブル】 ※グループワークを含めた演習を中心とした科目となります。

予定時間	予定内容
- 1 日目 - 9:45 10:00	受付 開講 ○ 求められる『教職員（学校）像』とは ○ リスクマネジメントについての概論（原理・原則） ○ コンプライアンス ○ 学校で起こりうるリスク・クレーム ○ クレーム対応 基本
17:00	○ 組織リスクを管理する 閉会

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。上記のタイムテーブルは前回実施時のものです。

教育・指導力向上（授業や話し合いに活用するファシリテーションの技術を学ぶ）

【内容・目的】

ファシリテーションとは、「容易にする」「円滑にする」という意味の「facilitate」の名詞である。わかりやすい表現に意識すると「意味ある場づくり」となろう。ファシリテーションは会議や話し合いを円滑にするだけではなく、教育現場においては、授業や学校・学級経営にも活用することができる「場づくり」の技術である。

本科目を受講した後に習得できるであろう具体的な行動目標は以下の通りである。

- ① 場づくりの技法としてのファシリテーションについて、そもそもの意義を理解する。
- ② 話し合いの基礎となる、コミュニケーションの基本を体得する。
- ③ 場づくりの基本的な技法を実践する。
- ④ 実際に授業・話し合いを企画・実施・省察する（アクティブ・ラーニングを含む）

なお、本科目では対面による集中講座（10 時間）の後、実際にファシリテーションを実践するために約 2 か月の期間を設け、オンラインでのフォローアップ講座（2 時間）を行う予定である。

【定 員】 24 名

【日 時】 ※必ず対面研修 2 日間とオンラインフォローアップ研修（計 12 時間／3 日）の両方にご出席ください。

○ 対面：

-1 日目- 令和 7 年 8 月 28 日（木）13:00～17:00

-2 日目- 令和 7 年 8 月 29 日（金）9:30～16:30

※2 日目のうち 1 時間は昼休み（昼食は各自でお取りください）

● オンラインフォローアップ：

-3 日目- 令和 7 年 10 月 20 日（月）14:00～16:00

※接続方法は後日メールでご案内いたします。

【会 場】 ○ 対面：アルカディア市ヶ谷 6 階「伊吹」

（東京都千代田区九段北 4-2-25／JR 市ヶ谷駅 徒歩 2 分）

● オンラインフォローアップ：Zoom

【受 講 料】 TCE 財団の都道府県支部の会員校 1 名 13,500 円

上記以外 1 名 27,000 円

※別途、下記の教材購入費がかかります。

【教 材】 「ファシリテーター行動指南書：意味ある場づくりのために」

（株式会社ナカニシヤ出版、監修者：中野 民夫、著者：三田地 真実）

2,200 円（税込）

※お申し込み後、教材は各自でご購入いただき、研修当日までにご一読のうえ、必ずご持参ください。

【参考図書】 「ファシリテーションで大学が変わる：大学編

アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには」

（株式会社ナカニシヤ出版、編著者：中野 民夫・三田地 真実）

2,420 円（税込）

※参考図書の購入および研修会当日のご持参は任意です。

【講 師】 教育ファシリテーション研究所所長

法政大学 教育開発支援機構 兼任講師、独立行政法人 教職員支援機構 フェロー

三田地 真実 氏 (プロフィール: https://researchmap.jp/mami_mitachi)

【お申込後の流れについて】

事務局より事務連絡をメールでお送りします。10 月開催オンラインフォローアップ研修の Zoom URL 等につきましては開催が近づきましたらメールでご案内いたします。

【タイムテーブル】※グループワークを含めた演習を中心とした科目となります。

対面研修 2 日間(10 時間)に加え、10 月に行われるオンラインフォローアップ研修(2 時間)の両方にご出席いただいた方に修了証を発行いたします。

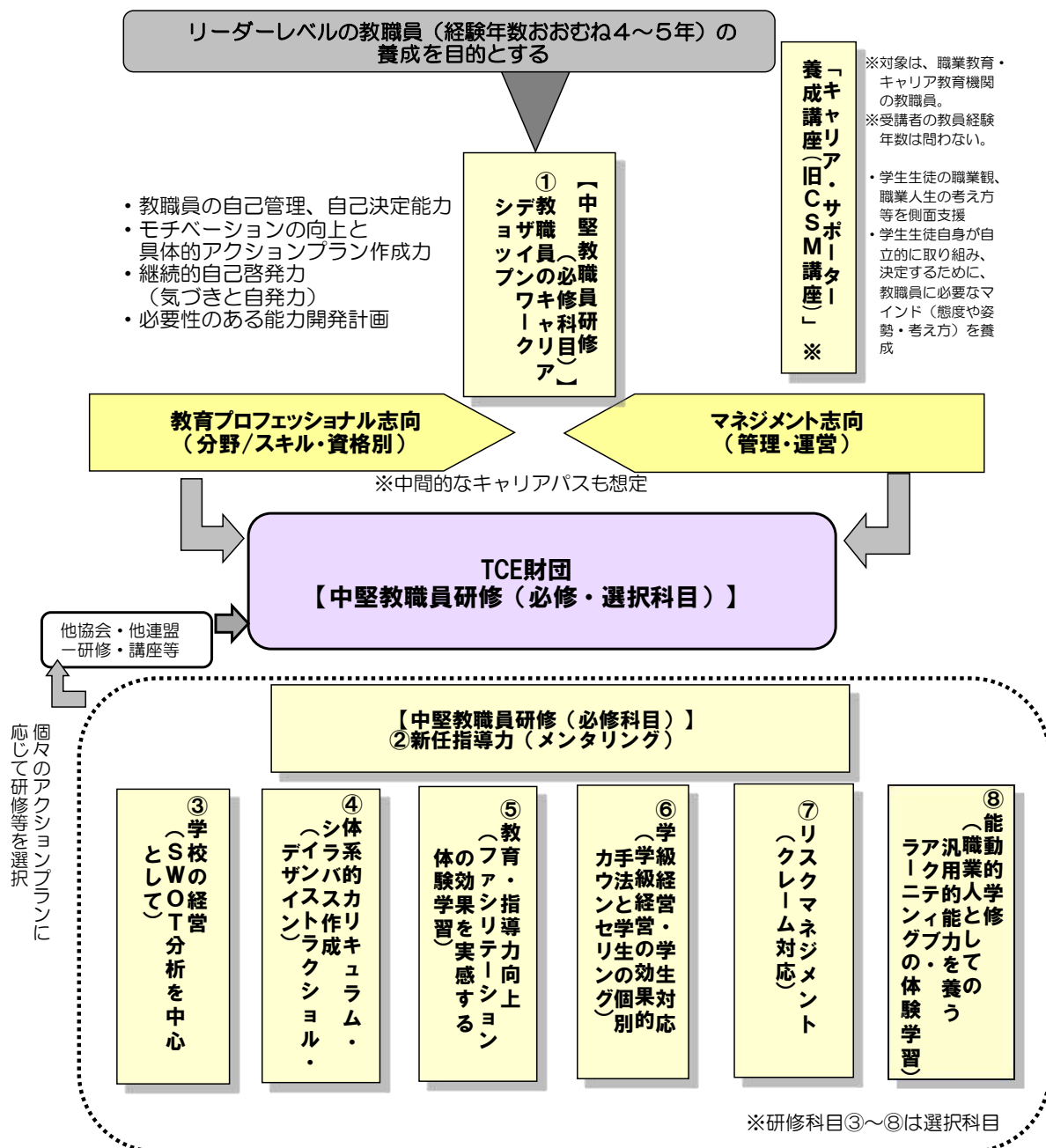
予定時間	予定内容
- 1 日目 - 12:45 13:00 17:00	受付 開講 ○ オリエンテーション ○ ファシリテーションとは (概論) ○ ワーク (話合いのプロセス観察) ○ プログラムデザイン事例紹介 ○ 翌日の課題(プログラムデザインなど)説明 終了
- 2 日目 - 9:30 16:30	再開 ○ 前日の復習 (チェックイン) ○ ファシリテーション準備の段階 ○ プログラムデザイン演習 ○ 場づくりの演習 ○ ファシリテーション本番の段階 ○ コミュニケーション演習 ○ ファシリテーションフォローアップの段階 (10 月 20 日の説明) ○ 2 日目振り返り 閉会
-オンライン- フォローアップ (10 月 20 日) 13:30 14:00 16:00	受付 開講 ○ ファシリテーションフォローアップの段階 ○ 受講生各自の実践報告+それぞれのプロセスの省察共有 終了

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。

TCE財団 中堅教職員研修 カリキュラムの内容

考え方と構成

- (1) 中堅教職員研修は、「①教職員のキャリアデザインワークショップ（必修科目）」をベースとして、キャリアビジョン及び自ら作成するアクションプランに基づくコアとなる研修科目②～⑧（必修＝②・選択必修＝③～⑧）を用意。
- (2) ①～⑧の8科目以外に、他の団体・組織主催の研修を含め、各教員のキャリア・就業年数等に応じた研修の受講（継続的能力開発）を奨励する。



※カリキュラム構成図は令和6年度のものです。

7科目受講された方への研修成果のインタビュー

中堅教員研修会全7科目（平成29年度時点）を修了された4名に対し、研修成果のインタビューを行った。
4名のプロフィール概要は以下のとおり。

修了者	学校分野	性別	年齢	学校勤務年数
A	商業実務	男	48	3年
B	医療	男	43	7年
C	医療	女	38	10年
D	医療	男	38	7年

～気付きと行動変化はありましたか？～

- 学校全体のことや若手職員の育成という点について、受講前よりも意識して行動するようになりました。特に「考えるだけでなく行動する」ということをモットーにし、若手職員のお手本となることはもちろんですが、ベテラン職員の方々からも信頼されるように行動しています。
- 教員としての職務（教育）だけでなく、教員としてどのようなキャリアを歩んでいくかを考える契機となりました。また、自身が与えられた職務をどのような考えで進めて行くかを多元的に考えられるようになりました。
- まず、授業内のグループワークや、個人で参加する研修においては「ファシリテーション」を意識します。また、受講させていただきました「インストラクショナルデザイン」は、次年度のシラバス提出時に生かして見直しを考えております。また、私は防火管理者であることもあり、「リスクマネジメント」について意識することも、同僚に伝える機会も多いように感じます。その他の教科につきましても、テキストを見直したり、用語の確認を行ったりする機会があります。意識面では「キャリアデザインワークショップ」で感じた自身の決意を思い起こすこともあり、貴重な機会であったと認識しております。しかし、日常の雑事に取り紛れて希薄になる瞬間や、浅い知識にとどまり定着していないもどかしさを感じることもありますので継続学習の機会をいただきたいと思います。
- 教職員の面談の際に、今まで以上に「質問・傾聴・観察・伝達」を意識して行うよう、努めてきました。また、質問や伝達といったこちらから発する内容も本研修で学んだものから相談内容に適したものを抽出するように努めました。相手の立場を考慮した上で発言し、相手に答えを導き出させるような対応を自然にできてきたと思っています。個人的には、仕事全体の視野が広がり、専門学校の教職員としての在り方がおぼろげながらも見えてきたような感覚でいます。

～今後、中堅教職員研修会を受講される方へのメッセージ～

- 理解しやすいプログラムもあれば、なかなかすぐには理解できないものもあると思いますが、必ず役に立つ時が来ると信じて受講してほしいと思います。また、様々な専門学校の先生方と交流することで、悩みを共有したり解決の糸口を見出すことができたり、それだけでも研修に参加して良かったと思うことができます。壁にぶつかって悩んでいる方やスキルアップを目指す方にはとてもすばらしいプログラムになっていると思います。ぜひ全てのプログラムのコンプリートを目指して頑張ってください。
- 中堅教員研修は間違いなく大きな収穫を得られる講座となります。一つ一つを大切に受講されることで確実に成長していけると思います。
- 全ての研修を受講して思うことは、どの専門学校でも抱える問題点・課題点を冷静に振り返り分析できる機会をいただいたのだなということです。研修は元より他校の先生方と利害関係なく率直に意見や情報の交換ができたことも大変有意義でした。